

建材 マンスリー

No.723

1

JANUARY
2026

特集
2026年
注目キーワード

脱炭素リューション

“どんぐりから苗木を育て山に戻す”
社会貢献型プロダクト「MODRINAE」

注目企業を訪ねる

株式会社REMARE



新年明けまして

おめでとうございます

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

平素は「建材マンスリー」をご愛読いただき、誠にありがとうございます。また、旧年中は格別のご愛顧を賜り、心より御礼申し上げます。

当社は2030年に向けた長期ビジョン「Mission TREEEING 2030」に沿って、2025年からの3カ年を飛躍的成长に向けた改革と具現化の3年として、「地球環境への価値」「人と社会への価値」「市場経済への価値」を高める事業活動を推進しています。

私ども木材建材事業本部では、本年も業界の課題解決の視点から、DXをベースにしたソリューションや現場での省施工・プレワーク・施工力確保を進め、持続可能性と生産性向上に取り組みます。

現在、住宅建築の合理化を進める各種プラットフォームの構築を段階的に進めております。見積・受発注・現場配達業務のDXによる生産性向上を実現する「業務プラットフォーム」、AI活用により最短3日で構造計算書・伏図を作成する設計支援・構造エクスプレス」を起点に基礎・構造部材を最適化し、ワンストップで対応する省施工サービス「構造プラットフォーム」、サッシ・パネルとサイディングプレカット

脱炭素への動きとしては、2028年度に床面積50000m²以上の大規模事務所建築時のCO₂排出の開示義務化が見込まれ、その後も対象となる建築物を拡大していくという方向性が示されています。

建築物のライフサイクルにおけるCO₂排出は、住んでいるときに排出するオペレーションカーボンが約7割、建築から廃棄までに排出するエンボディドカーボンが約3割を占めています。オペレーションカーボンについては、現行のZEHよりも高い性能基準である「GX ZEH」が新たに定義されるなど、住宅の省エネ性能が高まることで削減が進みます。一方、エンボディドカーボンについては、ます「見える化」が必要で、その後様々な削減・オフセットが進むという流れを予測しております。

当社では、全世界で最も広く利用されているエンボディドカーボン算定ソフトウェア「One Click LCA」日本版の展開、各製品のLCAを示すEPD認証取得ツール「EPD Generator」の

サービス提供、バイオマス燃料の安定的なサプライヤー構築、国産材の利用促進・再造林などを通じて、引き続きCO₂排出の可視化や削減・炭素固定に取り組み、地球環境に貢献していきます。

製造事業においては、木材コンビナート第一弾として福島県に立ち上げた株式会社木環の杜で、本年3月から国産材製材の商業生産を開始します。また米国ルイジアナ州においても、木材コンビナート事業に着手しており、製材事業のみならず、今後需要拡大が見込まれるマスティンバー製造も検討しています。パネル・ボード事業では長年ご愛顧いただいている海外関係会社のKTTI社やNPII社の製品を軸に様々な付加価値を生み出し、さらに建材事業においてはより競争力のある製品サプライヤーを構築します。このような取り組みを通して、木を余すことなく使い切るカスケード利用により木材の価値を最大化してまいります。

台湾の実業家である郭台銘氏は「大が小に勝つのはなく、ただ速い者が遅い者に勝つのだ」と言います。この言葉を胸に、挑戦する年にしたいと考えております。

最後に皆様の益々のご発展をお祈りし、新年のご挨拶とさせていただきます。

住友林業株式会社
常務執行役員
木材建材事業本部長

細谷 洋一



2026年 注目キーワード

特集

ドナルド・トランプ氏のアメリカ大統領再就任で幕を開けた2025年。

相互関税や地政学的リスクによって、世界経済が大きく揺れ動いた一方、

世界各地で大規模な水災害が起こるなど気候変動の影響も顕著となった。

また、4月～10月に開催された大阪・関西万博では「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、人類共通の課題解決に向けた先端技術が集結。

建設資材としての“木”的可能性が発信されるとともに、

脱炭素化やAIといったテクノロジーの進歩を垣間見ることができた。

今号では、そんな未来社会に向けた2026年のキーワードを編集室が選び、識者に解説してもらった。

フィジカルAI

次なるAIとして開発が進むのが、五感（センサー）で得た情報を自律的に判断して動き、現実世界で物理的な作業を担うフィジカルAIだ。汎用的な人型ロボットの研究も加速しており、熟練工の技術の自動化も可能になるかもしれない。

ネイチャーポジティブ経営

自社の価値創造プロセスで自然の保全を重要課題と位置付け、バリューチェーンにおける自然への負荷を最小化し、製品・サービスを通じて自然への貢献を最大化する経営のこと。脱炭素化と共に経営における重要なテーマとなりつつある。

全固体電池

正極と負極の間に、電解液ではなく固体電解質を用いる次世代の蓄電池。安全性や耐久性に優れ、エネルギー密度が高いなどのポテンシャルを秘めており、電気自動車を筆頭に様々な用途への活用を視野に入れた開発が進んでいる。

フィジカルAI

ロボット大工が登場間近?!
職人の熟練技能もAIが再現する時代へ

パソコンやスマートフォンの中で文章や画像、動画などを作成してくれる生成AI。2022年のChatGPTの登場以後、ホワイトカラー業務の自動化を図り生産性の向上にも役立つツールとして定着してきた。次なるAIとして

開発が加速して

AI開発企業Laboro。AIの

創業者である椎橋徹夫氏は、こ

こ数

年で生成AIの進化により自動運転

技術が飛躍的に向上しており、この

進化がフィジカルAI開発の大きな

転換点になつていると話す。自動運

転の本格的な実用化が近付く中、課

題であるモビリティーの制御のため

には物理空間で瞬時に適切な意思決

定を行う必要がある。その精度を高

めるために、実際のモビリティーを

使ってAIに学習させることは事故

の可能性も考えると現実的ではない。

そこで、進化した生成AIが可能に

する高精度な仮想空間を利用し、何

度も試行錯誤を重ねる強化学習を行

む

ため、人型ロボットは既存の環

境をそのまま活用でき、汎用性が極

めて高い。アメリカのテスラや中国

企業を中心開発が進んでおり、

ヒューマノイドロボットが大量に出て

くる時代も遠くはないと考えられます

」

また、高精度なハードウエア開発

は日本のお家芸です。熟練技能を再

現するAIと、それを動かす特定部

門

に注力することで、グローバルなサ

ーピューラーの開発が進んでいます。

そこで、製品やサービスの選択肢の多

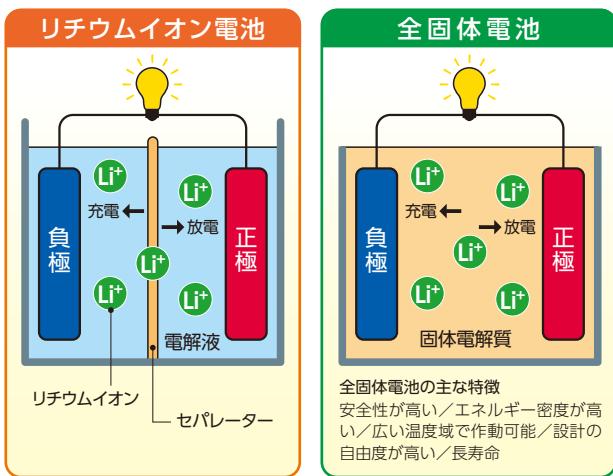
様化も考えられます。

また、高精度なハーデウエア開発

は日本のお家芸です。熟練技能を再

全 固 体 電 池

●リチウムイオン電池と全固体電池の違い



「全固体電池の最も優れている点は、可燃性の電解液を用いないため、固体電解質が用いられている。」

「全固体電池の性能の向上や充電時間の大変な短縮の可能性がある他、理論上は劣化しないで、15～20年の耐久性を持つポテンシャルがあります」

こう話すのは、長年にわたり全固体電池の研究をけん引してきた辰巳砂昌弘氏だ。全固体電池の実用化に向けた開発は国家プロジェクトを通じて進展してきた。現在はNEDO*主導プロジェクトである「SOLID-iD+NexT」に大手企業・大学なども参画し、開発は実用化に向け最終段階に入っているという。国内の大手自動車会社では2027年ごろの

現在、リチウムイオン電池はスマホから電気自動車まで様々な用途で用いられているが、次世代の新たな技術として着実に開発が進んでいるのが全固体電池だ。従来のリチウムイオン電池は、正極と負極の間に電解液が存在する構造だが、全固体電池はその名の通り、電解液の部分に固体電解質が用いられている。

「全固体電池の最も優れている点は、可燃性の電解液を用いないため、固体電解質が用いられている。」

「全固体電池の性能の向上や充電時間の大変な短縮の可能性がある他、理論上は劣化しないで、15～20年の耐久性を持つポテンシャルがあります」

こう話すのは、長年にわたり全固体電池の研究をけん引してきた辰巳砂昌弘氏だ。全固体電池の実用化に向けた開発は国家プロジェクトを通じて進展してきた。現在はNEDO*主導プロジェクトである「SOLID-iD+NexT」に大手企業・大学なども参画し、開発は実用化に向け最終段階に入っているという。国内の大手自動車会社では2027年ごろの

電気自動車への搭載計画を発表しており、今後の市場形成が期待される。「研究が進む全固体電池は、電解質の材料によりいくつかに分類され、特徴や用途が異なります。例えば、『硫化物系』はリチウムイオンのみが動く理想的な性質で大容量化・高出力化に適しており、製造もしやすいので車載用としての開発が進んでいます。『酸化物系』は安定性が高く、約200度の高温でも動作が可能という特徴があります。コストを低減すれば、原子炉内部や宇宙空間などの極限環境で働く機械への搭載が期待されます。さらに『ハロゲン化物系』は高いイオン電導性と成形性を併せ持ち、硫化物系と酸化物系に次ぐ新たな潮流として研究が進んでいます」

電気自動車以外にも
様々な用途で活用の可能性

全固体電池の実用化について、当面はリチウムイオン電池と共に普及が進む可能性があると辰巳砂氏は予測する。

「全固体電池の普及に向けた大きな課題の一つが、量産技術の確立とコ

ストダウンです。自動車に搭載する大型電池を安定して大量生産するのは容易ではありません。海外では中国などが開発を加速させていますが、完全な全固体ではなくゲル状の電解質を用いた『半固体電池』から市場参入する可能性が高いでしょう」

車載用以外にも様々な用途が考えられる。全固体電池は液漏れの心配がないため、薄型化など形状の自由度が高い。自動車用途に比べて市場規模は小さいものの、半導体技術を応用した薄膜型電池ならウエアラブルセンサーやIoTデバイスの電源としての活用などが考えられる。

「住宅に関わるところでは、車載用として利用を終えた中古の全固体電池を家庭用蓄電池として再利用する道があると思います。今後10年のうちに、車載用の硫化物型全固体電池の普及が進むはずですが、他にも二つや用途に合わせた様々な種類の全固体電池の開発が進んでいくものと思われます」

ストダウンです。自動車に搭載する大型電池を安定して大量生産するのは容易ではありません。海外では中国などが開発を加速させていますが、完全な全固体ではなくゲル状の電解質を用いた『半固体電池』から市場参入する可能性が高いでしょう」

車載用以外にも様々な用途が考えられる。全固体電池は液漏れの心配がないため、薄型化など形状の自由度が高い。自動車用途に比べて市場規模は小さいものの、半導体技術を応用した薄膜型電池ならウエアラブルセンサーやIoTデバイスの電源としての活用などが考えられる。

「住宅に関わるところでは、車載用として利用を終えた中古の全固体電池を家庭用蓄電池として再利用する道があると思います。今後10年のうちに、車載用の硫化物型全固体電池の普及が進むはずですが、他にも二つや用途に合わせた様々な種類の全固体電池の開発が進んでいくものと思われます」

* NEDO：国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構。エネルギー・地球環境問題の解決や日本の産業技術力の強化のため、委託事業や補助金などにより技術開発を支援する政府の機関



全固体電池研究所
客員教授/名誉教授
大阪公立大学
エグゼクティブアドバイザー

辰巳砂 昌弘氏

脱炭素 リューション

Vol.10

日本では、多くの人工林が伐採適齢期を迎え、CO₂吸收量も高齢化等に伴い減少傾向で推移している。一方、人手不足などの影響を受け、「木を切り、植える」という循環が生まれず管理されないままの森林が多くある。皆伐地のおよそ7割が、植林されずに放置されているというデータもあるほどだ。そんな森林の循環を取り戻すことに貢献し、脱炭素社会にもつながる体験ができるのが「MODRINAE(戻り苗)」だ。



株式会社ソマノベース
CEO／代表取締役社長
奥川 季花 氏

“どんぐりから苗木を育て山に戻す”社会貢献型プロダクト「MODRINAE」

植林されない山で起こる土砂災害を防ぎたい という思いで起業

どんぐりから苗木を育てるセット「MODRINAE」。購入者は、およそ2年間かけて自宅やオフィスで大切に育てる。15~20cmほどに成長した苗木は和歌山県で植林される。樹種はウバメガシという広葉樹で、紀州備長炭の原木になる樹種。そしてどんぐりを育てる専用の鉢は、苗木が戻る和歌山県で育った天然木製だ。林業ベンチャーの株式会社ソマノベースは、こうした取り組みを「MODRINAE」として商品化し、植林を進めている。

「起業のきっかけとなったのは高校生の頃の体験です。2011年に紀伊半島大水害を経験し、地元が土砂災害で被災しただけでなく、私は友人を亡くしました。以降、災害対策としての林業を学ぶようになり、皆伐地に植林がされないことで土砂災害、特に表層崩壊のリスクが高まるることを知りました」

そう話す奥川季花氏が2021年に起業し、「MODRINAE」を企画。国産材の需要創出・利用拡大を支援するウッドデザイン賞を受賞し、注目を集めた。また、紀伊半島大水害から10年のタイミングだったこともあり、TVで紹介されたことなども認知度拡大を後押しした。

「MODRINAE」は、全国から幅広く参加でき、場所を選ばずインテリアとして育てるることもできるため購入者の裾野は広い。コロナ禍によるおうち時間が増えていたことや、芸能人などが動画サイトで取り上げたこともあり、発売直後から問い合わせが殺到するプロダクトとなった。

企業も個人も手軽に山と関わるきっかけに

現在、顧客は個人、企業、自治体と幅広く、個人は毎年約200名ずつ増加している。出荷個数に関しては9割が企業向けだ。その背景には、「MODRINAE」が企業における環境保全活動として取り組みやすいことがある。

「初めてのお客様は、国内で製造業を営む中小企業様でした。環境保全活動に取り組みたいが人を割くことができず悩んでいたところ、「MODRINAE」であれば毎日社内



MODRINAEの専用の鉢

植林活動の様子



の誰かが世話をできるということでご購入いただきました。次のお客様は海外で環境保全活動をされていた企業様で、コロナ禍で海外活動が困難になり国内活動に切り替えるタイミングで「MODRINAE」を選択していただきました」

企業で行われる環境保全活動では、大きな費用負担が避けられない。しかし「MODRINAE」は1本1.2万円から参加できるため、予算に合わせて柔軟に対応できる点も強みだ。さらに、社内で苗木の育成に取り組むことで、社員間のコミュニケーションが活発になるという効果も期待できる。また、希望すれば植林体験も可能だ。これまでに全国で4,000本ほどの苗木が育てられており、700~800本がすでに植林されているという。

「植林場所は、基本的に和歌山県内の山主さんから植林依頼を受けて選定しています。植えている樹種は成長の遅い広葉樹で、本数も林業事業体と比べればわずかです。しかし、山と関わるきっかけづくりへの貢献度は高いと自負しています。実際に「MODRINAE」に取り組まれている企業では、オフィスの内装木質化やノベルティの木材製品への変更、さらには森林事業への挑戦など様々なニーズが生まれています。今後は、それらのお取り組みのサポート体制も充実させていきます。山との接点づくりのお手伝いをすることで、長い目で見た脱炭素にも貢献できればうれしいですね」

注目企業を訪ねる

付加価値創造に挑戦

— また、70000パターンに上る成形データが蓄積されていることも同社の強み —

独自技術とプラント開発で複合プラスチックを再資源化し新たな価値を吹き込む



代表取締役
間瀬 雅介 氏

本社 ● 愛知県名古屋市昭和区
鶴舞一丁目2番32号
(STATION Ai)
創業 ● 2021年
資本金 ● 200.391千円(資本準備金を含む)
従業員 ● 17名
事業内容 ● 海洋ごみのリサイクル、
複合プラスチックを活用した内装材製造、
プラント開発、企業の廃プラスチックの削減ソリューションの企画提案

素材に合わせた再資源化が可能な自社プラント開発

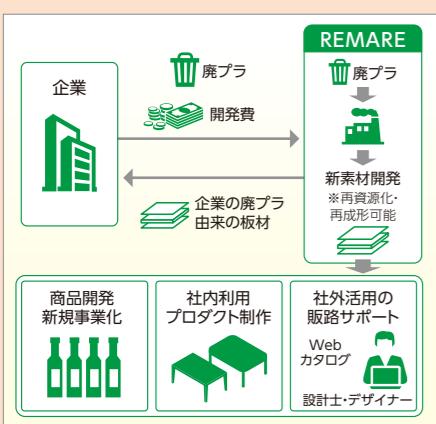
—これまで焼却処分されてきた廃プラスチックを「デザイン性ある板材に生まれ変わらせているREMARE。獨特なマーブル模様で唯一無二の「デザイン性」を持つ板材は内装材や家具として活用されており、「サステナブル×デザイン性×加工性」という独自の価値で廃プラスチックに新たな選択肢を提供し、社会課題の解決に貢献している。

たとえば、廃プラスチックを抱える企業からも注目していただけたようになつたのです

「廃棄物」を「資源」として還元し企業のCSR活動にも貢献

—カーボンニュートラルに向けて規制が進む中、空間デザイン会社にとっては素材調達もScope3*に当たるため、サンステナブル素材の利用はCSR活動として有益だ。一方、プラスチック排出企業にとっては、温室効果ガス削減に向けてプラスチックのリサイクルが必要となり、廃棄にもコストがかかるのが悩みの種となつていて。

—当社は一気通貫の自社プラントを持つていて、マテリアル開発から製品製造まで企業ごとに伴走し、廃プラスチックを再資源化して自社に資源として戻すことが可能だ。出来上がった製品を再度資源化し、別の製品に変更もできます。あるホテルでは、使用済みのプラスチック製アメニティなどを回収し、そのホテルの内装材として活用いただきました。私たちのプロダクトは、金型を使用しない切削加工で、小ロットで多品種の展開が可能であるため、CSR活動としてPRに使いたいといつ企業の要望にも応えられます



ここが注目ポイント

廃プラスチックを「デザイン性ある内装材などの素材として再資源化

ワンストップで最終成形できる
プラント開発であらゆる
プラスチックを加工可能に

企業ごとの課題解決に伴走する
ソリューションビジネスを拡大

— 同社は管理ソフトの開発を通して、廃プラスチックの一次情報を蓄積するとともに、企業が必要なときに必要なデータに接続できるという継続的な価値を提供している。

「日本には、どんな種類のプラスチックがどこでどれだけ発生しているかという一次情報がありませんでした。これらのデータを蓄積し、場所ごとの廃プラスチックの種類や特徴に合わせた最適なプラントを設計・開発する取り組みも行っています。また、廃プラスチックの管理ソフトも開発し、企業ごとに再資源化した素材や量、温室効果ガスの削減量といった情報をシステム上で一元管理しています」

「最近では、プラスチックを再形成するワークショップを開催するなど企業の意識改革もサポートしています。国内では、サービスヨーロッパのソリューションまで備えた企業はほぼありません。現在、当社のサービスへのご要望をいただいている状態です。今後はプラントの全自動化を進めながら量産体制を整え、プラント販売を目指していきます」

「安定した素材として複合プラスチックを再資源化できる条件を分析してデータを蓄積し、素材に合わせて加工できる技術を確立しました。また、洗浄から最終成形工程まで一貫して行える独自のリサイクルプラントを3年かけて完成させました。その後、海洋プラスチックごみや使用済み漁具を原料にした板材の加工に着手。独特な表情のマーブル模様を持つ板材に、最初に興味を持ってくれたのが空間デザイン会社でした。デザイン性が高くサンステナブルな板材として好評いただき、テーブル天板に仕上げ

チックが大量に浮いていた風景を目の当たりにし、140度程度の熱で形状変更でき加工もしやすいプラスチックに素材としての可能性を感じたのです。そこで、世界的な課題である海洋プラスチックごみを資源として再利用する仕組みができる大きなビジネスになると考え、起業に至りました」

* Scope3: 企業活動に関連する温室効果ガスのうち直接的な排出や購入した電力などの間接排出 (Scope1・2) 以外のサプライチェーン全体で発生する間接排出

「住宅省エネ2026キャンペーン」を開始

「みらいエコ住宅2026事業」創設 — 国土交通省、経済産業省、環境省

国土交通省、経済産業省、環境省は3省連携による住宅省エネ化支援制度「住宅省エネ2026キャンペーン」の概要を発表した。「GX志向型住宅の新築」「子育て世帯等を対象とする長期優良住宅・ZEH水準住宅の新築」「既存住宅の省エネリフォーム」などを支援する。

■ 省エネ住宅の新築

●「みらいエコ住宅2026事業」【国土交通省・環境省】 NEW

床面積50m²以上240m²以下の新築住戸に対して支援を行う。2025年11月28日以降、基礎工事に着手したものを対象とする。

対象世帯	対象住宅	補助額 () は1~4地域*
すべての世帯	GX志向型住宅	110万円/戸 (125万円/戸)
子育て世帯 または 若者夫婦世帯	長期優良住宅	75万円/戸 (80万円/戸)
	古家の除却を行う場合	95万円/戸 (100万円/戸)
	ZEH水準住宅	35万円/戸 (40万円/戸)
	古家の除却を行う場合	55万円/戸 (60万円/戸)

*建築物省エネ法における地域区分

<交付申請の手続き期間>

申請受付開始から予算上限に達するまで(遅くとも2026年12月31日まで)。「ZEH水準住宅」のうち注文住宅に関しては、交付申請の期限を予算上限に達するまで(遅くとも2026年9月30日まで)とする。

■ 既存住宅の省エネリフォーム

- 高断熱窓の設置:「断熱窓への改修促進等による住宅の省エネ・省CO₂加速化支援事業」【環境省】
- 高効率給湯器の設置:「高効率給湯器導入促進による家庭部門の省エネルギー推進事業費補助金」【経済産業省】
- 既存賃貸集合住宅向けエコジョーズ等への取り換え:「既存賃貸集合住宅の省エネ化支援事業」【経済産業省】
- 開口部・躯体等の省エネ改修工事:「みらいエコ住宅2026事業」【国土交通省】(2025年11月28日以降にリフォーム工事に着手したもの) NEW

「みらいエコ住宅2026事業」における既存住宅リフォーム

対象住宅	改修工事	補助上限額
平成4年基準を満たさないもの	平成28年基準に達する改修	上限: 100万円/戸
	平成11年基準に達する改修	上限: 50万円/戸
平成11年基準を満たさないもの	平成28年基準に達する改修	上限: 80万円/戸
	平成11年基準に達する改修	上限: 40万円/戸

<補助対象工事>

必須工事	開口部・躯体(外壁・屋根・天井・床)の断熱改修、エコ住宅設備の設置の組み合わせ
附帯工事	子育て対応改修、バリアフリー改修など

「令和6年(2024年)木材需給表」を取りまとめ、公表

木材自給率は42.5% — 林野庁

林野庁は2024年の木材需給に関するデータ「令和6年(2024年)木材需給表」を公表した。木材自給率は前年比0.4ポイント減少の42.5%となった。

■ 木材の需要

木材の総需要量は8,187万4,000m³で、用材としいたけ原木は減少したが、燃料材の増加により前年比2.5%増加した。輸出量は400万3,000m³で、前年比17.9%の増加となった。

■ 木材の供給

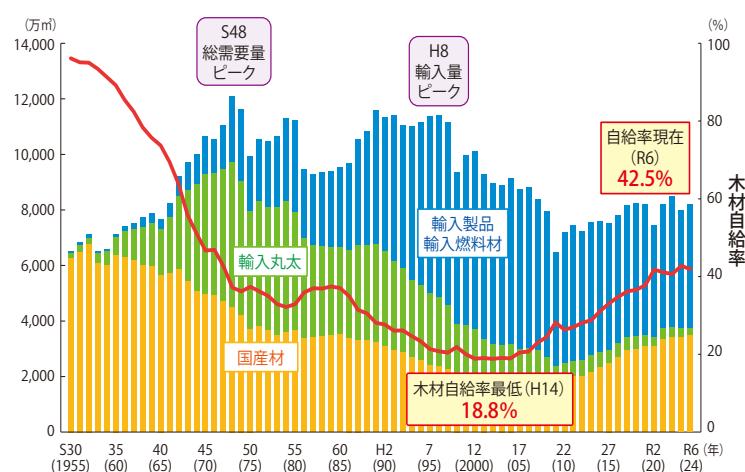
国内生産量は3,480万9,000m³で、燃料材の増加により前年比1.4%の増加。輸入量は4,706万5,000m³で、用材と燃料材の増加により前年比3.2%の増加となった。

■ 木材自給率の動向

木材自給率は42.5%となり、前年比0.4ポイントの減少となった。用途別では建築用材等の自給率は52.9%で、前年より2.4ポイント減少、非建築用材等の自給

率は36.5%で前年より0.7ポイント上昇した。

木材供給量及び木材自給率の推移



編集室より

弊社ホームページにPDF版を掲載中です。

住友林業 建材マンスリー

検索



■ 送付先の変更、広告掲載・誌面に対するご意見などは
以下までご連絡ください。

メールアドレス: kenzai-monthly@sfc.co.jp

住友林業株式会社 木材建材事業本部 業務企画部

編集後記

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。2026年の干支「丙午(ひのえうま)」は「力強いエネルギーと行動力に溢れ、前進し続ける年」と言われています。個人的には、迷ったら即行動を意識して公私ともに様々なチャレンジをしていきたいと思います。本誌においても、読者の皆様の期待を超える価値を提供すべく、積極的に新たな企画に踏み出し、共に成長できる場を創造していかなければ幸いです。(H)

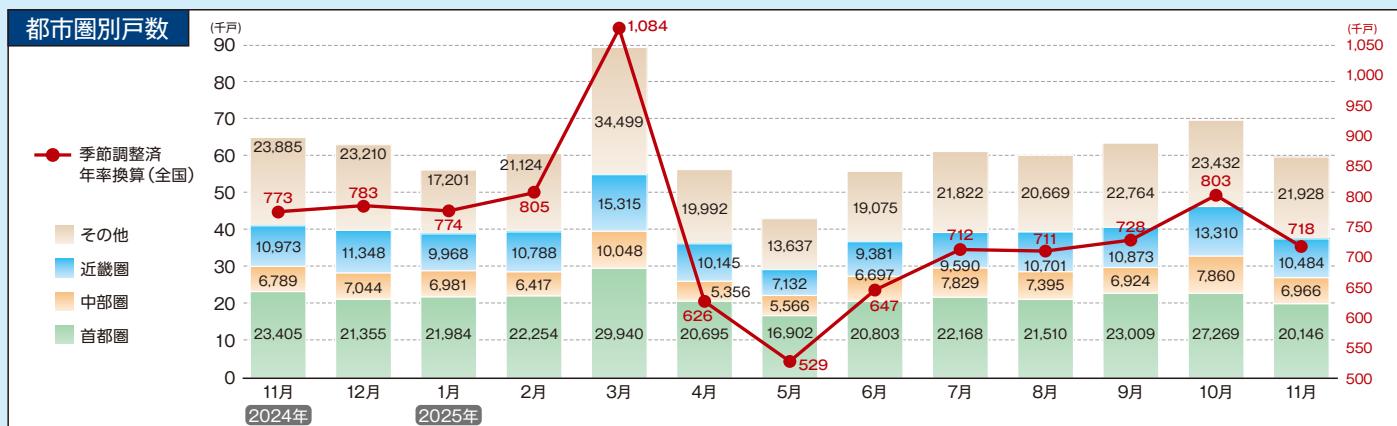
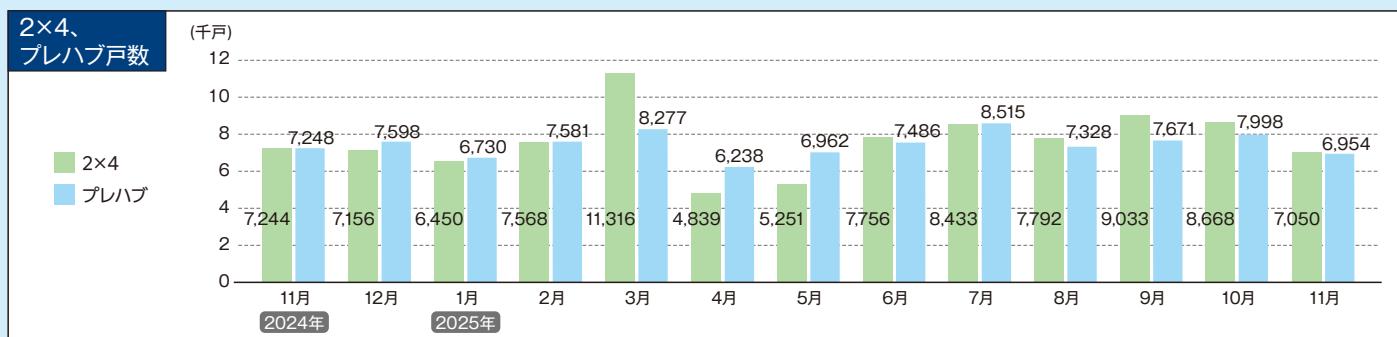
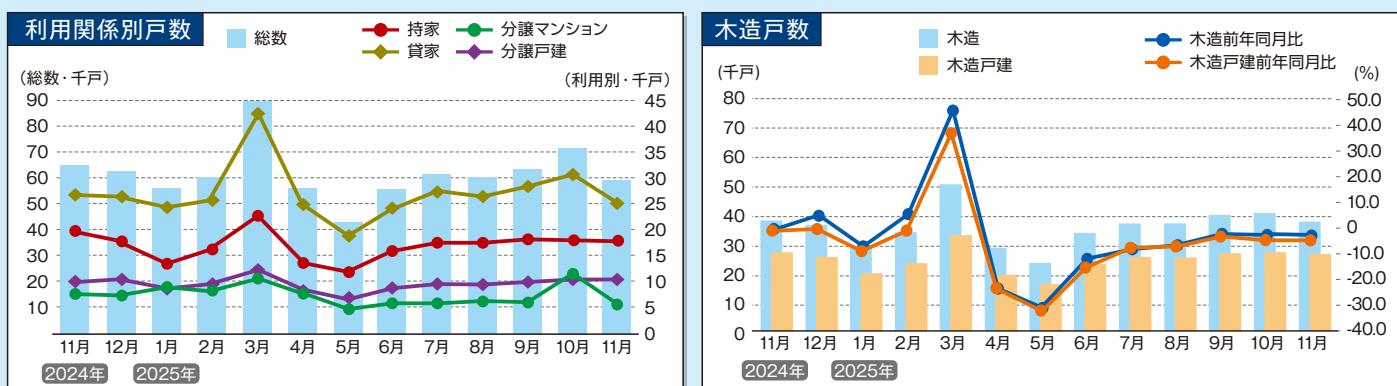
表紙: 住友林業(株) 住宅事業本部 名古屋中央支店 名駅北展示場

* 家具などのインテリア品は実際の展示と
異なる場合があります

資料室

2025年11月の新設住宅着工戸数 単位:戸 ▲は減

		11月					10月	9月	8月
		対前年同月比		対前々年同月比					
新設住宅計		59,524	▲5,528	▲8.5%	▲6,714	▲10.1%	71,871	63,570	60,275
建築主別	公共	320	▲344	▲51.8%	▲267	▲45.5%	786	785	132
利用 関係別	民間	59,204	▲5,184	▲8.1%	▲6,447	▲9.8%	71,085	62,785	60,143
	持家	17,901	▲1,870	▲9.5%	112	0.6%	18,081	18,273	17,532
	貸家	25,253	▲1,476	▲5.5%	▲3,022	▲10.7%	30,771	28,494	26,585
	給与住宅	267	▲139	▲34.2%	▲329	▲55.2%	539	375	339
	分譲住宅	16,103	▲2,043	▲11.3%	▲3,475	▲17.7%	22,480	16,428	15,819
	うちマンション	5,551	▲2,344	▲29.7%	▲2,120	▲27.6%	11,650	6,121	6,148
資金別	うち戸建	10,389	265	2.6%	▲1,446	▲12.2%	10,564	10,070	9,476
	民間資金	54,496	▲5,644	▲9.4%	▲6,558	▲10.7%	65,256	57,865	55,545
	公的資金	5,028	116	2.4%	▲156	▲3.0%	6,615	5,705	4,730
	公営住宅	301	▲3	▲1.0%	25	9.1%	742	741	108
	住宅金融機関融資住宅	1,363	▲77	▲5.3%	▲445	▲24.6%	1,445	1,490	1,372
	都市再生機構建設住宅	0	▲324	▲100.0%	▲212	▲100.0%	0	0	0
構造別	その他住宅	3,364	520	18.3%	476	16.5%	4,428	3,474	3,250
	木造	37,708	▲1,149	▲3.0%	▲1,047	▲2.7%	40,597	40,060	37,046
	非木造	21,816	▲4,379	▲16.7%	▲5,667	▲20.6%	31,274	23,510	23,229
	鉄骨鉄筋コンクリート造	371	▲60	▲13.9%	▲194	▲34.3%	586	117	443
	鉄筋コンクリート造	14,402	▲3,640	▲20.2%	▲4,003	▲21.7%	21,881	15,275	14,878
	鉄骨造	7,010	▲669	▲8.7%	▲1,443	▲17.1%	8,781	8,100	7,868
構造別	コンクリートブロック造	24	7	41.2%	▲18	▲42.9%	18	12	33
	その他	9	▲17	▲65.4%	▲9	▲50.0%	8	6	7



(出典：国土交通省ホームページ http://www.mlit.go.jp/statistics/details/jutaku_list.html)

étagelle～エタジェール～



Store Smart, Live Better

“賢く収納して、より良い生活を”



住友林業クレスト株式会社

<https://www.sumirin-crest.co.jp>

